

## 一通の手紙が企業を動かす

### —梅田スカイビルにバタフライガーデンを造る—

私の所属するビオトープ部の顧問の先生から、梅田スカイビルに造られたバタフライガーデンの秘話を聞き、感動した。先生は以前大阪府立城山高校で教鞭を取られていた。同校は大阪府豊能郡豊能町に所在した学校である。バタフライガーデンに植栽する植物の栽培で全国的にもたいへん有名な学校であり、大阪狭山市狭山池公園や伊丹市笹山公園、箕面市箕面森町に同校で栽培していた苗を用いてバタフライガーデンが造られた。

一方、大阪府の高校統廃合計画に伴い、定員割れをしている学校を閉校にする施策が行なわれていた。城山高校は平成17年4月に閉校の発表があり、平成18年4月に最後の入学生を迎え、平成20年3月の卒業式と同時に閉校した。平成17年に閉校作業に向けた取り組みが始まった際、学校の農場には3,000鉢以上のバタフライガーデン用植物のポット苗があったが、機能統合先の園芸高校に引き取りを断られたそうである。そのため、ポット苗の引き取り先を探されたが、なかなか見つからなかった。

時期を同じくして積水ハウスが「5本の樹」計画のコマーシャルを放映された。「5本の樹」計画とは、地域の在来樹種を庭づくりに生かす積水ハウス独自の生態系に配慮した庭づくり・町づくりの提案で、住宅庭園を造る際、「鳥のために実のなる木を3本」、「蝶のために幼虫が食べる木や成虫が蜜を吸う木を2本」を植栽するというものである。このコマーシャルを見られた城山高校の中村和幸先生は同校のポット苗を少しでもいいから住宅庭園で使ってほしいという手紙を積水ハウスに送られた。

平成17年4月には、積水ハウス梅田スカイビル公開緑地の改修工事が始まっていた。著名な環境デザイナーでもある吉村元男氏の設計で、8,000㎡の敷地にクヌギ・コナラ林、竹林、ため池、鎮守の森、小川、水田、畑より構成された里山を造る工事が行なわれていた。

城山高校からの手紙を受け取った積水ハウスの「新里山開発プロジェクトメンバー」がこの手紙を読まれてたいへん感動されたそうである。そして城山高校の思いに答えていただき、わざわざ設計を変更していただいた。里山エリアを6,000㎡に縮小し、残りの2,000㎡に「花と蝶の庭」を制作し、城山高校から2トトラック5台分のポット苗と1台分のしいたけホダ木廃材をスカイビルに運び平成17年7月に植栽した。

第1表 梅田スカイビル花野で確認された蝶の種類

科名	種類
アゲハチョウ科	アゲハチョウ、キアゲハ、クロアゲハ、モンキアゲハ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ
シロチョウ科	キタキチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ
シジミチョウ科	ウラギンシジミ、ツバメシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ
タテハチョウ科	アカタテハ、ルリタテハ、ツマグロヒョウモン、コムシジキ、クロノマチョウ、アサギマダラ
セセリチョウ科	イチモンジセセリ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ

調査期間：2007年～2018年

当時、大都市梅田にバタフライガーデンを造っても蝶などあまり飛来しない、来ても数種類だという意見が多かったが、15年の歳月をかけて23種類もの蝶の生息が確認された（第1表）。花野の近辺にある街区公園では、わずか5種類しか確認されなかった。

花野では発生する雑草はすべて抜かず、草丈が高くなったもののみを選抜的に除草するという独特の雑草管理法が行われている。この除草法を行なうことで多年生雑草が増加する。特に草丈の低いカタバミが繁茂する。カタバミが増加するとそれを食べるヤマトシジミが増加し優占種となり、現在花野で多く飛来している。

第2表 大阪府立園芸高校が花野に提供した植物

分類	植物名
食餌植物	アメリカスミレサイシン、アラカシ、アリマウマノスズクサ、イヌザンショウ、イヌビワ、ユズイボタノキ、ウツギ、ウバメガシ、ウマノスズクサ、エノキ、カラスザンショウ、カラタチ、オニグルミ、カラムシ、クスノキ、クヌギ、クララ、コクサギ、コマツナギ、サルトリイバラ、サンショウシモツケ、シリブカガシ、シロダモ、スイカズラ、スミレ、ススキ、セリ、ソテツ、タチツボスミレ、タニウツギ、チガヤ、ツメレンゲ、ドイツスミレ、トウコマツナギ、ナラガシワ、パセリ、パンジー、ビオラ、ヒゴスミレ、フユザンショウ、ヘンルーダ、ホトギス、マテバシイ、ユキヤナギ
吸蜜植物	アベリア、オカトラノオ、オトコエシ、クサギ、コウヤボウキ、サンジャクパーベナ、ニラノアザミ、ヒヨドリバナ、フジバカマ、ムシトリナデシコ、ランタナ・カマール、コバノランタナ、マリーゴールド、ジニア、センニチコウ、キバナコスモス、エキナセア、
観賞用草花	カワミドリ、ナギナタコウジュ、カワラナデシコ、ヒガンバナ、ホトルブクロ、メハジキ、ナデシコ、テルスター、トモエソウ、シロバナタンポポ、イモカタバミ、ハナワギク、ダリア、デージー

花野には平成21年以降から現在まで園芸高校から年に5～6回、1回500ポット前後の苗を提供している。単純計算しても30,000ポットにもなる。配布した植物は蝶の幼虫が摂食する食餌植物、成虫が蜜を吸う吸蜜植物および人間が観賞するための花壇用草花に分けられる(第2表)。23種類もの蝶が飛来したことは私達と花野を管理していた

第3表 食餌植物の播種日と発芽率

植物名	播種日	調査日	発芽率(%)
クヌギ	10月1日	5月13日	100
イボタノキ	11月24日	3月12日	96
クスノキ	11月6日	3月24日	93
カラスザンショウ	10月19日	3月30日	63
ナラガシワ	10月8日	4月21日	63
タブノキ	7月29日	10月6日	48
コクサギ	1月12日	4月7日	41
タニウツギ	1月18日	5月27日	34
ウツギ	1月14日	4月20日	33
サンショウ	10月19日	4月2日	28
コマツナギ	10月30日	4月20日	26
エノキ	9月3日	4月5日	20
シロダモ	12月10日	6月2日	18
イニザンショウ	10月21日	4月11日	16
クララ	10月2日	4月5日	12
キハダ	3月6日	5月15日	1
サルトリイバラ	11月6日	6月2日	0
平均			40.7

だいている(株)ガーデンラボのガーデナーの方々の努力が報われたことを示している。

私たちは原則として実生栽培で苗を作っている。そのため発芽率が低いものもあり、苗づくりに苦労している(第3表)。サルトリイバラは秋に取りまきしたが、まったく発芽しなかったが、2年目の春に発芽し、びっくりした。このように発芽率が低いもの、発芽までに時間がかかるもの、発芽してもいっせいに発芽せずバラバラに発芽するものもあり、思ったように苗ができないのが実状であった。それでも、多くの苗を提供できたことが多くの蝶が舞う花

野の礎になっていると思うとうれしく感じる。城山高校の閉校が決まった年とスカイビル公開緑地の改修工事が同時期であったこと。城山高校の苗の引き取り先が無かったこと、手紙を見られた積水ハウスの神対応など様々な要因がプラスに働いたと思われる。私もバタフライガーデンの植物栽培や昆虫調査に関わらせていただいている。調査を行なっていて都会とは思えない昆虫の数に驚かされている。一通の手紙からこんなに素晴らしいものが生まれることがあるということを心に刻んでこれからも花野にさらに多く蝶や生き物が生息するよう努力していきたいと思う。